

資料編 本時案

第1時(見通し1にかかわる授業)

(1) 本時で育てたい言語能力

様々な視点から文(文章)中の効果を探ることのできる能力

(2) ねらい

提示された教材を通して、効果的な表現の働きや表現効果カードの作成方法について理解する。

(3) 準備

教科書、ワークシート①②、国語辞典、古語辞典、国語便覧、自己評価表①

(4) 展開

学習活動	時	学習への支援(●)及び留意点(※) 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援(◇)	評価項目(評価方法)
○今までの表現学習について振り返り、文章表現力を向上するにはどうしたらよいかを考える。	10分	●文章表現力向上の条件は様々であるが、この学習活動では「平明さ」と「個性」に絞って学んでいくことを確認し、学習のねらいを明確にする。 ※教師が一方的に生徒に示すのではなく、生徒がそれまで読んできた悪文、名文を想起させて上記の2点が導き出せるよう発問を工夫する。	【関心・意欲・態度】 ○文章表現力を向上させるために、効果的な表現とはどのようなものかについて考えよう ○表現効果カードの役割について理解し、様々な表現方法がもたらす効果について考えている。 (活動、ワークシート①②、自己評価表①の分析)
○ワークシート①を使った学習…例示された効果的な表現が施された文と施されていない文とを比較・検討し、効果的な表現の条件について考える。 ◎ワークシート②を使った学習…既習の古典(「枕草子」春はあけぼの)を題材とした表現効果カード例を通して、表現効果カードの作成方法を学ぶ。	35分	●効果的な表現が施された文と施されていない文とを相互に書き換えたり、二つを比較したりするよう助言する。 ●書き手の意図もあわせて考えるよう助言する。 ※日常の話言葉等、生徒に身近な例も示す。 ※書き手には常に読み手に対する意識(「平明さ」と「個性」を表す)が働いていることを念頭に置くよう助言する。 ※効果的な表現を探るための視点をもつことが目的なので、簡単な例を提示するにとどめる。 ◇ワークシートに例示された文(文章)だけでなく、自己の経験した効果的な表現を考えたり、既習の教科書題材より効果的な表現を抜き出したりするよう助言する。 ●表現効果カード作成の手順を各項目にしたがって理解できるよう整理する。 ●次時以降の学習にいかせるよう、効果的な表現を探るための視点をもつよう助言をする。(効果…リズム・強調・個性・平明さ、工夫…表現や言い回し・構成・展開) ※表現効果カード例はすべて記述されたものを提示するのではなく、その表現がもたらす効果、公式にする箇所は空欄とし、話し合いながら検討する。 ※正答に到達することが目的ではなく、自由な発想をすることが学習のねらいであるということを助言し、生徒がリラックスして学習に取り組むことができるよう配慮する。 ◇表現効果カード中の「現代の表現に活用する」項目欄に思いつくことや、既習の題材で当てはまると思われる表現をできるだけ多く書くよう助言する。	【書くこと】 ○例示された効果的な表現が施された文と施されていない文とを交互に書き換えることができる。 ○効果的な表現方法を適切な言葉で公式として表現できる。 (活動、ワークシート①②、自己評価表①の分析) 【言語についての知識・理解】 ○文章表現力向上の条件を理解している。 ○効果的な表現方法とその効果について理解している。 (活動、ワークシート①②、自己評価表①の分析)
○本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ○次時からの表現効果カード作成について確認する。	5分	●自己評価表①に記入する。 ※「徒然草」と「方丈記」を通して、効果的な表現を探るということを説明し、本時の内容をもう一度復習するよう指示する。	

第2時(見通し2にかかわる授業)

(1) 本時で育てたい言語能力

題材の内容や筆者の主張を読み取りながら文や文章の表現効果について分析し、それを的確に表現する能力

(2) ねらい

「徒然草」「方丈記」の内容を読み取り、効果的な表現を探り、その条件について考える。

(3) 準備

「徒然草」「方丈記」口語訳付きテキスト、表現効果カード、国語辞典、古語辞典、国語便覧

(4) 展開

学習活動	時	学習への支援(●)及び留意点(※) 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援(◇)	評価項目(評価方法)
○前時の学習を振り返る。 ○本時のめあてをつかむ。	5分	●前時の学習事項と本時の学習のねらいを確認する。	
◎表現効果カードを作成する (1)「徒然草」(4段)と「方丈記」(序段)を読んで効果的な表現方法を探る。	40分	●効果的な表現方法に気付くよう適宜助言を与える。 (1)効果を探るための手順を確認する。 ア 気になる表現、個性的と思う表現を抜き出す。 イ その表現を別の表現に書き換えて比較してみる。 (2)原文と口語訳を比較したり、音読したりする。 (3)効果的な表現方法を探るための視点を示す。 【効果…個性、平明さ、リズム、強調……】 【工夫…表現、言い回し、展開、構成……】 (4)辞書等を活用し、内容を読み取り、筆者の意図や主張を念頭に置く。 【具体的な助言例】 ①亀山殿の水車 ○段落構成に注意して論の展開を考えてみよう。 ○筆者の主張はどこにあり、その他の叙述とどうかかわっているか。(助動詞「けり」と「なり」に注意する。) ②仁和寺にある法師 ○筆者の主張はどこにあり、その他の叙述とどうかかわっているか。 ○筆者の主張には登場人物への批判がはっきりと表されているか。 ○「係り結び」等の文法に注意して内容を考えてみよう。 ③丹波に出雲といふ所あり ○最後の一文の役割について考えてみよう。 ④奥山に猫またといふものありて ○文法事項に注意してみよう。(同格「の」、連体形止め、婉曲(えんきょく)) ○ユニークな表現に着目してみよう。「助けよや」「這(は)ふ這ふ」… ⑤ゆく河の流れ ○文中に施された修辭法について調べて、筆者の主張とかかわらせて考えてみよう。 ○原文を音読してみよう。 ⑥全体にかかわって ○意味の分かりにくい所に着目してみよう。 ○読点に着目してみよう。 ※生徒の理解度に応じて援助し、教師側の考えを押しつけないよう留意する。 ◇選択した章段だけでなく、他の章段についても効果的な表現について考えるよう助言する。	【関心・意欲・態度】 ○各題材における筆者の表現意図と効果的な表現について考え、表現効果カード作成に取り組んでいる。(活動、表現効果カードの分析) 【書くこと】 ○効果的な表現を発見し、それらを適切な言葉で表現している。(活動、表現効果カードの分析) 【言語についての知識・理解】 ○文章の構成や、修辭法等の働きやその効果について正しく理解している。(活動、表現効果カードの分析)

<p>(2) 探り当てた効果的な表現を自己の文章表現に活用することができるように公式にする。</p>	<p>●どのような目的、場面でその表現が使えるかを具体的に考えるよう助言する。 【具体的な目的、場面】 ○相手に自分の意見・主張を伝えるための意見文（どのような意見を言うのにどの表現が使えるか） ○相手に分かりやすく伝えるにはどう表現するか。 ○相手に自分の伝えたいことをはっきり言わずに伝えたい時 ○相手に自分の意見を伝えるだけでなく、強調したり、印象深く感じさせたりするための表現 ○字数が制限されている、端的に表現しなければならない場面（簡潔に表現するのにどうするか） ●ふだん使っている平易な言葉で公式にするよう助言する。 ※生徒の探り当てた視点を否定せず、公式にできるよう適宜助言し、意欲を持続させる。 ◇便覧、辞書等を使い、公式にしたものがどのような名称で定義づけられているか調べるよう助言する。</p>	
<p>○次時からの学習内容（表現効果カードの検討）について確認する。</p>	<p>5分 ※作成した表現効果カードを発表し、全員で共有するために公式の内容を検討することを説明する。</p>	

第3時（見通し2にかかわる授業）

(1) 本時で育てたい言語能力

修辞法や文章構成について正しく理解し、表現とそれがもたらす効果について分析する能力

(2) ねらい

作成した表現効果カードについて検討し、評価し合うことによって公式を共有する。

(3) 準備

「徒然草」「方丈記」口語訳付きテキスト、表現効果カード、付箋紙、国語辞典、古語辞典、国語便覧、自己評価表②

(4) 展開

学習活動	時	学習への支援（●）及び留意点（※） 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援（◇）	評価項目（評価方法）
<p>○前時の学習を振り返る。 ○本時のめあてをつかむ。</p>	<p>5分</p>	<p>●前時の学習事項と本時の学習のねらいを確認する。</p>	
<p>◎作成した表現効果カードをグループごとに発表し、書かれた内容について相互に評価し合う。</p>	<p>40分</p>	<p>●内容理解の徹底を図るために発表を聞くよう指示する。 ※疑問点については積極的に質問し、一方的な伝達にならないよう注意する。 ※発表する表現効果カードは、印刷し各自に配るものと、拡大し黒板に掲示するものの2種類を用意する。 ◇自己の文章への具体的な活用方法が見つけられたならば、印刷配布したカードに適宜メモする。</p> <p>●発表された表現効果カードについての良い点や問題点を指摘し合い、現代の文章表現において、どのような目的や場面で公式が使えるかを検討する。 ※各自気付いた点については、発表用資料にメモし、付箋に書き写した後、黒板に掲示された表現効果カードに貼付（てんぷ）する。 ◇一つのカードだけでなく、できるだけ多くのカードについて検討するよう助言する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】 ○自己の文章に活用する、また様々な表現に活用できるという観点から公式を評価しようとしている。（活動、メモ、自己評価表②の分析）</p> <p>【書くこと】 ○作成した公式の良い点、悪い点を適切な言葉で評価メモに記入し、互いにアドバイスしている。（活動、メモ、付箋、自己評価表②の分析）</p>

○検討されたカードの内容（公式）を全員で共有する。		【言語についての知識・理解】 ○表現方法とそれがもたらす効果について正しく理解している。 (活動、メモ、付箋、自己評価表②の分析)
○前時及び本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。 ○次時の内容を予告する。	5分 ●自己評価表②に記入する。 ※次時への見通しがもてるよう、具体例を交えながら話をする。	

第4時(見通し3にかかわる授業)

- (1) 本時で育てたい言語能力
目的や場面に応じてより効果的に読み手に伝わるよう、工夫して書くことのできる能力
- (2) ねらい
作成した表現効果カード（公式）を自己の文章表現に活用する。
- (3) 準備
「徒然草」「方丈記」口語訳付きテキスト、表現効果カード、ワークシート①～③、国語辞典、古語辞典、国語便覧、自己評価表③
- (4) 展開

学習活動	時	学習への支援（●）及び留意点（※） 十分満足とする状況・態度の生徒に対する支援（◇）	評価項目（評価方法）
○前時の学習を振り返る。 ○本時のめあてをつかむ。	5分	●前時の学習事項と本時の学習のねらいを確認する。	
○作成し、検討した表現効果カード（公式）を基に表現したり、例示された課題文をより効果的に伝わるよう書き換えたりする。 ◎効果的になるよう表現した文、文章が適切であるかを検討したり、評価し合ったりする。	40分	●課題文がどのような目的、場面で書かれたものかを把握させる。 ●相互評価させることによって各自の表現を推敲させる。 ●ワークシート③に示された課題文以外に、具体的な表現ができる生徒がいれば、発表させて、検討する。 ※場面と目的を教師が説明せず、生徒自身が気付くことができるよう指導、助言する。 ◇ワークシート③に示された課題文以外に、具体的な表現のできる生徒には発表させる。 場面…小論文、キャッチコピー、日常生活…… 目的…わかりやすい表現（何を伝えたいか）、印象付けるための表現（個性を出すにはどうするか） ばかして言う表現、強調したい表現……	【関心・意欲・態度】 ○作成した公式を基に自己の表現に活用しようとしている。 (活動、ワークシート③、自己評価表③の分析) 【書くこと】 ○作成した公式を基に、適切な言葉でより効果的に表現することができる。 (活動、ワークシート③、自己評価表③の分析)
○今回の学習を振り返り、表現への自信を深める。 ○今後の表現学習に対する見通しをもつ。	5分	●表現への自信と意欲がもてるよう、生徒の上達を賞賛する。 ●自己評価表③に記入する。 ●今回の学習を継続的に行うことによって、表現能力の向上を図るよう助言する。 ※文章表現力向上のための学習が今回の学習に限定されないよう、アドバイスする。(語彙を増やすこと、トピックとなるような材料を集めること、文字を正しく書くこと……)	【言語についての知識・理解】 ○効果的な表現を施した文と例題で示した文を比較し、効果的な表現について正しく理解している。 (活動、ワークシート③、自己評価表③の分析)